

平成23年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月11日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社エム・エイチ・グループ
 コード番号 9439 URL <http://mhgroup.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 文彦

問合せ先責任者 (役職名) 管理部マネージャー (氏名) 田邊 芳彦

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

TEL 03-5411-7222

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年6月期第1四半期の連結業績(平成22年7月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年6月期第1四半期	459	△0.1	△5	—	7	1.1	△8	—
22年6月期第1四半期	460	△29.8	10	—	7	—	37	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年6月期第1四半期	△80.55	—
22年6月期第1四半期	328.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%		
23年6月期第1四半期	1,245	—	511	—	41.0	4,583.48
22年6月期	1,289	—	506	—	39.2	4,584.46

(参考) 自己資本 23年6月期第1四半期 510百万円 22年6月期 506百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年6月期	—	0.00	—	100.00	100.00
23年6月期	—	—	—	—	—
23年6月期(予想)	—	0.00	—	100.00	100.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年6月期の連結業績予想(平成22年7月1日～平成23年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	979	6.9	37	26.4	17	△18.4	3	△96.0	32.10
通期	2,001	13.3	117	62.2	76	—	58	47.4	522.23

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年6月期1Q	113,321株	22年6月期	113,321株
② 期末自己株式数	23年6月期1Q	1,861株	22年6月期	2,961株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年6月期1Q	110,719株	22年6月期1Q	113,321株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績の見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項などについては、四半期決算短信「連結業績に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、新興国経済の成長に伴う輸出の増加や政府の経済政策の効果による企業収益の改善が牽引となり回復基調にあるものの、国内における高い失業率やデフレ状況は依然として続いており、また、先進国の下振れ懸念や急激な円高の進行による輸出競争力の低下などにより、先行きは不透明な状況となっております。

当社が属する美容業界においては、低価格、クーポンなどを使った浮遊客の獲得による総客数を向上する企業、一方ではブランド統制及びサービスの向上として優秀な人材を確保し、リピート率、客単価を向上する企業の二極化の動きが始まっております。

このような状況のもと、当社グループは、経営資源を美容室運営事業である「モッズ・ヘア」を中心とした美容業への集約及びブランドの統制、付加価値の高いサービスの提供、業務の効率的な運営を図ることなどを目的とした当社を承継会社とする吸収分割による持株会社から事業持株会社への移行ならびに㈱ワーク・ワークスの買収、グローバルフラッグシップサロンとなる東京・銀座四丁目交差点、サッポロ銀座ビルの「モッズ・ヘア」銀座四丁目店開発、「モッズ・ヘア」をリーズナブルに体感できるコンセプトサロンの開発を実施してまいりました。

以上の結果、売上高は当初の予想通り順調に推移したものの、資産除去債務に関する会計基準の適用（これによる特別損失16,757千円）及び株主優待などの費用を含め、当第1四半期連結会計期間の連結業績は、売上高459,521千円（前年同四半期比0.1%減）、営業損失5,714千円（前年同四半期は営業利益10,580千円）、経常利益7,790千円（前年同四半期比1.1%増）、四半期純損失8,918千円（前年同四半期は四半期純利益37,200千円）となりました。

セグメント別の状況については以下のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(直営サロン運営事業)

日本全国に展開するBS（ブランドシェア）サロン（FCサロン）のフラッグシップサロンとして、首都圏主要地域を中心に直営15店舗、準直営（業務委託方式）3店舗の計18店舗を展開しております。

直営サロン運営事業では、景気低迷の影響による来店周期の長期化や低価格サロンへの流出に対応するべく、コンセプトサロンとして「モッズ・ヘア」駒沢店をオープンしております。「セルフブロー」や「ベビーシッティング」サービス、アップル社の人気製品「iPad」の導入、前髪カット無料化、お電話やインターネットでの事前予約なしで当日来店できるサービスなど、リーズナブルに「モッズ・ヘア」を体感できるシステムとなっており、学生や主婦を中心に多数ご利用いただき、オープン以来順調に実績を伸ばしております。

また、神奈川県横浜エリアにおけるサロン運営のノウハウを有する㈱ワーク・ワークスを買収するとともに、当該会社のサロンを直営サロン運営事業とし、当第1四半期連結会計期間より損益を取込んでおります。

そして、平成22年10月22日、「モッズ・ヘア」の本場であるパリ・シャンゼリゼ通りの「モッズ・ヘア」サロンと肩を並べるグローバルフラッグシップサロンが東京・銀座四丁目交差点、サッポロ銀座ビルに「モッズ・ヘア」銀座四丁目店としてをオープンいたしました。最高のロケーションで最高のサービスをお届けし、ブランド価値の向上を図ってまいります。

今後については、11月に相模大野店の移転リニューアル、翌年3月に二子玉川駅前の開発商業施設「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」に二子玉川店の新規オープンを予定しております。

なお、当第1四半期連結会計期間よりセグメント情報に合わせ、短時間、低コストでメイクアップ、パーティースタイルのみを提供するモッズ・ヘアパーティ運営事業及び当社が設備投資をし、運営のみを委託する準直営（業務委託方式）サロンは、直営サロン運営事業に集約いたしました。

(BSサロン運営事業)

現在、BSサロンは国内78店舗、韓国18店舗、台湾2店舗の計98店舗となっております。

当第1四半期会計期間における新規オープン、既存店舗の移転及びリニューアルについては、8月に草加店のリニューアル、9月に富山店のリニューアルを実施しております。

(ヘアメイク事業)

当社は「モッズ・ヘア」の原点ともなるフランス・パリのスタジオワーク専門ヘアメイクチームのプロフェッショナル精神を引き継いだ「モッズ・ヘア」ヘアメイクチームを有しております。

当社のヘアメイクチームは、ヘアメイクアーティストのエージェンシーとして「パリコレクション」をはじめ世界4大コレクション及び「東京コレクション」への参加や、CM・ファッション雑誌などを年間3,000ページ以上手掛けるなど、引き続き国内及び海外で高い評価を得ております。彼らの作品は「モッズ・ヘア」をブランディングするうえでクリエイションの柱であり、サロンスタイルなどでのアイデアソースとしても重要な役割を担っております。

(その他事業)

当社グループでは、国内90店舗以上を擁する「モッズ・ヘア」サロンの事業展開を通じて、様々なスケールメリットが創出されます。それをサービス化し、100%子会社である㈱ライトスタッフを通じて、一般のサロンに提供するサービスとして、クレジット手数料軽減サービスなどの美容室支援事業を行っております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は次のとおりであります。

①財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産については、前連結会計年度末に比べ43,969千円減少し、1,245,465千円となりました。主な要因としましては、投資事業組合の出資金の分配などによる投資有価証券の減少18,682千円、「資産除去債務に関する会計基準」等の適用による差入保証金の減少17,413千円などによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債については、前連結会計年度末に比べ48,438千円減少し、734,419千円となりました。主な要因としましては、借入金の返済による1年内返済予定の長期借入金の減少30,126千円、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少15,867千円などによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産については、前連結会計年度末に比べ4,468千円増加し、511,046千円となりました。主な要因としましては、自己株式の処分による自己株式の減少15,213千円及び資本剰余金の増加9,653千円、四半期純損失8,918千円及び配当金の支払11,036千円による利益剰余金の減少19,954千円などによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ営業活動及び財務活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなる一方、投資活動によるキャッシュ・フローがプラスとなり、12,414千円減少し239,099千円(前年同期比4.3%減)となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は2,431千円(前第1四半期連結会計期間は獲得した資金18,653千円)となりました。これは主に資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額16,757千円、投資事業組合運用益12,338千円、減価償却費8,275千円、仕入債務の増加6,200千円、法人税等の支払額19,050千円などによるものであります。

(投資活動におけるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、獲得した資金は18,372千円(前第1四半期連結会計期間は獲得した資金29,308千円)となりました。これは出資金の分配による収入20,750千円、有形固定資産の取得による支出2,378千円によるものであります。

(財務活動におけるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は28,206千円(前第1四半期連結会計期間は使用した資金75,000千円)となりました。これは長期借入金の返済による支出31,941千円、自己株式の処分による収入24,866千円、短期借入金の返済による支出10,000千円、配当金の支払額8,705千円などによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは、前連結会計年度より経営資源を集約し、美容室運営事業を中心とした事業展開を図っております。

美容室運営事業については、個人事業者を含め競合が数多く存在する業界であり、より強い競争力が求められます。多様化するお客さまのニーズに応えるため、インターネットなどを活かしたサービス向上プログラムの構築、新技術・新商品の開発、優秀な人材の確保などを着実に推し進めると同時に、合理的かつ継続的なコスト削減に取組み、成長性と収益性を同時に追求してまいります。また、新規オープン、既存店舗の移転及びリニューアルにしましては、国内外を問わず直営店舗及び準直営店舗ならびにB S店舗について、ブランド力及びコスト、中長期的な収益性の計画などを踏まえたうえで慎重に検討してまいります。

平成23年6月期の連結業績見通しについては、売上高及び営業損益、経常損益、当期純損益ともに当初予想の範囲内であり、当第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想については平成22年8月12日公表の数値を変更しておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、連結子会社の株式会社アトリエ・エム・エイチは、平成22年7月1日付で連結子会社の株式会社エム・エイチ・パンフィックを吸収合併いたしました。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「資産除去債務に関する会計基準」の適用

当第1四半期連結会計期間より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業損失は656千円増加し、経常利益は656千円減少し、税金等調整前四半期純損失は17,413千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始により、投資その他の資産の「差入保証金」が17,413千円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	239,099	251,513
売掛金	127,058	126,995
商品	50,099	46,714
未収入金	151,655	144,182
繰延税金資産	46,060	47,384
その他	36,568	33,948
貸倒引当金	△8,836	△9,166
流動資産合計	641,705	641,573
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	384,567	384,567
減価償却累計額	△240,744	△235,695
建物及び構築物（純額）	143,823	148,872
工具、器具及び備品	84,999	84,999
減価償却累計額	△64,892	△61,995
工具、器具及び備品（純額）	20,107	23,004
その他	4,994	4,994
減価償却累計額	△1,052	△855
その他（純額）	3,942	4,139
有形固定資産合計	167,872	176,016
無形固定資産		
のれん	4,631	4,875
その他	158	175
無形固定資産合計	4,790	5,051
投資その他の資産		
投資有価証券	149,609	168,291
長期貸付金	59,174	62,436
差入保証金	265,109	282,523
繰延税金資産	12,994	12,480
破産更生債権等	50,407	50,407
その他	4,953	5,068
貸倒引当金	△111,151	△114,413
投資その他の資産合計	431,096	466,794
固定資産合計	603,760	647,862
資産合計	1,245,465	1,289,435

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	30,939	24,739
1年内返済予定の長期借入金	87,290	117,416
未払金	223,733	193,130
未払費用	42,295	42,957
未払法人税等	741	16,608
未払消費税等	7,884	8,089
ポイント引当金	4,627	3,499
その他	30,766	62,825
流動負債合計	428,277	469,266
固定負債		
長期借入金	53,451	55,266
長期未払金	68,170	70,598
受入保証金	182,240	185,240
その他	2,279	2,487
固定負債合計	306,141	313,591
負債合計	734,419	782,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	104,614	94,961
利益剰余金	△56,319	△36,365
自己株式	△25,737	△40,950
株主資本合計	522,557	517,645
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△11,682	△11,704
評価・換算差額等合計	△11,682	△11,704
新株予約権	171	637
純資産合計	511,046	506,577
負債純資産合計	1,245,465	1,289,435

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	460,035	459,521
売上原価	332,210	336,246
売上総利益	127,825	123,275
販売費及び一般管理費	117,245	128,990
営業利益又は営業損失(△)	10,580	△5,714
営業外収益		
受取利息	249	42
投資事業組合運用益	—	12,338
その他	147	2,148
営業外収益合計	396	14,528
営業外費用		
支払利息	1,445	927
為替差損	653	—
投資事業組合運用損	1,118	—
その他	58	96
営業外費用合計	3,275	1,023
経常利益	7,701	7,790
特別利益		
関係会社株式売却益	30,767	—
貸倒引当金戻入額	1,500	328
店舗閉鎖損失戻入額	—	2,000
その他	—	465
特別利益合計	32,267	2,793
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	16,757
特別損失合計	—	16,757
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	39,968	△6,173
法人税、住民税及び事業税	2,902	1,597
法人税等調整額	△134	1,147
法人税等合計	2,768	2,744
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△8,918
四半期純利益又は四半期純損失(△)	37,200	△8,918

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	39,968	△6,173
減価償却費	8,564	8,275
のれん償却額	—	243
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,382	△330
受取利息	△249	△42
支払利息	1,445	927
子会社株式売却損益(△は益)	△30,767	—
売上債権の増減額(△は増加)	15,864	△62
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,615	△3,384
仕入債務の増減額(△は減少)	13,140	6,200
投資事業組合運用損益(△は益)	—	△12,338
ポイント引当金の増減額(△は減少)	897	1,127
未収消費税等の増減額(△は増加)	△3,136	3,784
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	16,757
その他	△13,642	2,521
小計	25,087	17,504
利息及び配当金の受取額	249	42
利息の支払額	△1,445	△927
法人税等の支払額	△5,237	△19,050
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,653	△2,431
投資活動によるキャッシュ・フロー		
出資金の分配による収入	16,224	20,750
有形固定資産の取得による支出	△2,237	△2,378
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△21,189	—
貸付金の回収による収入	36,505	—
その他	5	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	29,308	18,372
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△10,000
自己株式の処分による収入	—	24,866
割賦債務の返済による支出	—	△2,427
長期借入金の返済による支出	△75,000	△31,941
配当金の支払額	—	△8,705
財務活動によるキャッシュ・フロー	△75,000	△28,206
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△147
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△27,038	△12,414
現金及び現金同等物の期首残高	267,767	251,513
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	8,985	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	249,714	239,099

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

	美容室運営事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	452,388	7,647	460,035	—	460,035
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	452,388	7,647	460,035	—	460,035
営業利益又は営業損失(△)	52,068	2,299	54,368	(43,788)	10,580

(注) 1. 事業の区分の方法

事業の区分は、売上集計区分をベースに、事業の種類・性質の類似性を勘案して区分しております。

2. 事業の内容

美容室運営事業：美容室の運営・オリジナル商品の開発及び販売事業等

3. その他の売上高につきましては、平成21年8月14日に株式譲渡いたしました株式会社ジョリーブティックに対するコンサルティング売上であります。

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、美容業に専念しており、美容室「モッズ・ヘア」のアジア9カ国におけるライセンスを所有し、国内の直営サロン運営、国内及びアジア2カ国(韓国、台湾)のBSサロン運営及び「モッズ・ヘア」の原点となるヘアメイク、そして「モッズ・ヘア」のスケールメリットを活かしたクレジット手数料軽減サービスなどを一般のサロンに提供する事業展開をしております。

したがって、当社グループは、「直営サロン運営事業」「BSサロン運営事業」「ヘアメイク事業」の3つを報告セグメントとしております。

なお、報告セグメントにおける事業の詳細などについては、1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報の(1)連結経営成績に関する定性的情報をご参照ください。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	直営サロン 運営事業	B Sサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	計				
売上高	315,251	105,432	30,267	450,950	8,571	459,521	—	459,521
セグメント利益	22,992	44,740	2,603	70,336	2,737	73,074	△78,789	△5,714

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、美容室支援事業などを含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△78,789千円は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。